

日本の森林による二酸化炭素の吸収量拡大に向けた新たな取組みについて

～ 「童話の花束」から木づかい運動 ～

1. 株式会社市瀬（本社：東京都千代田区神田小川町三丁目，社長：市瀬泰一郎，以下「市瀬」）及び株式会社ジャパンエナジー（本社：東京都港区虎ノ門二丁目，社長：高萩光紀，以下「Jエナジー」）は，温室効果ガスの一つである二酸化炭素（CO₂）の排出量削減を図る観点から，林野庁が推進する「木づかい運動」（注1）に賛同して，新たな取組みを開始することといたしました。
2. 市瀬は，国内の森林整備を促進するための新たなビジネスモデルとして，日本の国内で生産された木材（以下「国産材」）をチップとして紙製品に積極的に活用する仕組み（以下「3.9ペーパー」。詳細は別紙1参照）を考案し，本年2月6日，財団法人日本木材総合情報センター（所在地：東京都文京区後楽一丁目，理事長：前川豊志）から，「木づかい運動」のロゴマークである「サンキューグリーンスタイルマーク」の使用登録認定を受けました。この登録は，木づかい運動の一環として行われている取組みのひとつです。
3. Jエナジーは，CSR活動の一環として取り組んでいるJOMO童話賞の作品集「童話の花束」（別紙2参照）の発行にあたり，この「3.9ペーパー」の仕組みを活用することとしました。Jエナジーは，「サンキューグリーンスタイルマーク」の使用企業第1号となります。
4. わが国では，京都議定書で定められたCO₂排出量の削減目標6%（1990年比）のうち，その3分の2に相当する3.9%（1,300万炭素トン）を国内の森林による吸収で削減することとしております。そのためには国産材の利用を拡大し，国内の森林整備を進めていくことが必要不可欠な状況にありますが，国産材の需要や価格の低迷により，森林所有者によるコスト負担が難しい問題となっております。
5. 今般，市瀬が考案した「3.9ペーパー」の仕組みは，印刷物を製作するユーザーが，森林所有者に代わって木材の輸送コストを負担することにより，間伐材を始めとする国産材の活用を促進し，健全な森林整備に資するもので，印刷物に使用する用紙の重量と同等の国産材が製紙原料として活用されます。市瀬では，CO₂排出量削減に貢献する観点から，各企業にこの仕組みを活用するよう広く働きかけていくこととしております。
6. Jエナジーは，「童話の花束」を年間28万部製作しており，それに使用する用紙は，年間約72トン（木材の体積換算：110m³）になります。また，Jエナジーは，国内の森林整備活動も行っており，今回活用する国産材は，「森林の里親契約（注2）」を交わしている長野県諏訪郡原村（村長：清水 澄）の森林整備の際に生産された間伐材としています。この売上金は，同村が進めている森林整備事業に還元されます。Jエナジーでは，国産材の利用は健全な森林循環に欠かせないことから，「童話の花束」以外の印刷物へも「3.9ペーパー」の活用を図っていくこととしております。

（注1）「木づかい運動」とは，地球温暖化防止に向けた京都議定書の目標達成に向けて，国産材の積極的な利用を促す国民運動で，林野庁が推進している取組。京都議定書目標達成計画では，クールビズやエコドライブなどと同列に位置づけられている。様々なPR活動やキャンペーンが展開されており，この一環として，企業に対しては，サンキューグリーンスタイルマークの使用により，CO₂吸収への貢献をアピールできる仕組みが，本年1月に創設されている。

（注2）「森林の里親契約」とは，長野県が推進している取組みで，企業と自治体が協働して森林整備を進めるもの。Jエナジーは，森林整備費用の一部を支援するほか，社員ボランティア等により，森林整備，村民との交流などの活動を行っている。

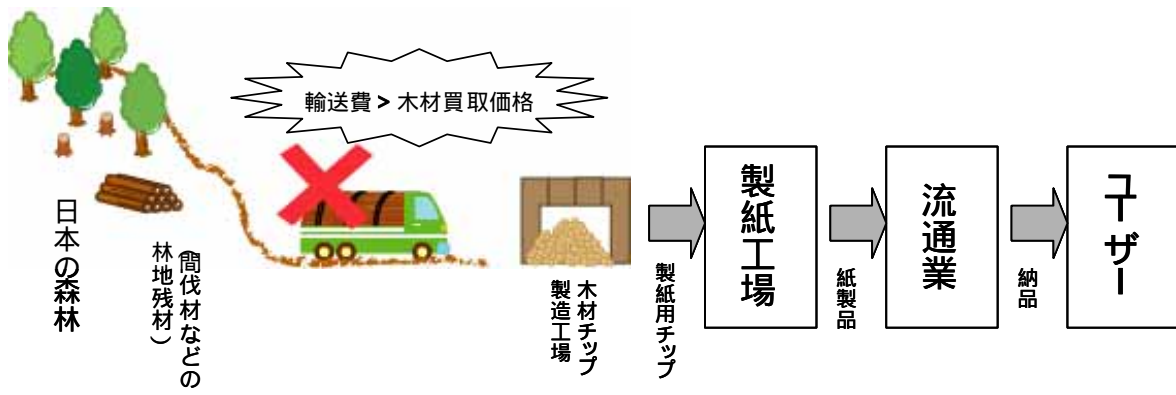
以上

本件に関するお問合せ先

株式会社市瀬	瀬	営業開発部	03(3291)7561
株式会社ジャパンエナジー		総務広報部	03(5573)6100

「3.9ペーパー」による国産材活用の仕組み

【通常の場合】

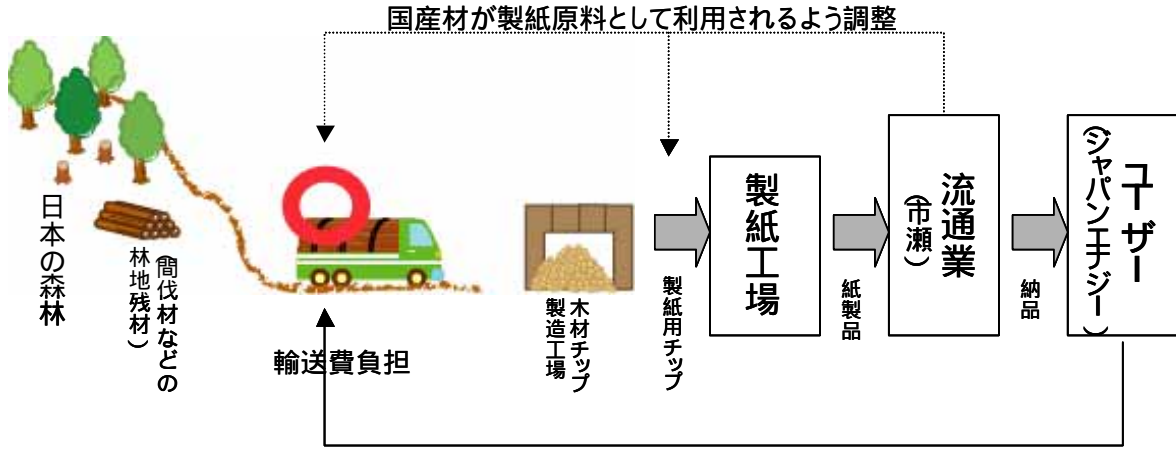


細い丸太や曲がりの大きい丸太は買取価格が安く、大半のケースでは、森林経営者が輸送費を負担するとかえって赤字になってしまうため、パルプ・チップ分野の国産材の自給率は約1割と低水準(柱や板などの製材は約3割)

山村の収入にならないため、国内の森林整備意欲が停滞

森林の手入れのための資金不足から間伐などが進まず、国内森林の荒廃やCO₂吸収量が伸び悩み...

【3.9ペーパーの場合】



この方式によれば
 森林経営者は市況のチップ買取価格で黒字経営が可能。
 ユーザーは比較的小額の資金負担で国内森林整備への貢献とCO₂吸収活動の推進を実践可能。
 流通業者はユーザーの求める物品調達とCSR活動の両立に対応可能
 となるので国産材の利用を通じた国内の森林整備が進み京都議定書の6%目標の達成に一步近づくことになる。
 今回の「童話の花束」に使用された紙の国産材自給率は約5割に相当します。(丸太輸送、製紙、納品のタイムラグのため原産村産の木材そのものが含まれている訳ではありません。)

1. 「童話の花束」と「木づかい運動」ロゴマーク



(表紙)



(裏表紙)



2. JOMO童話賞作品集「童話の花束」およびJOMO童話基金について

株式会社ジャパンエナジーは、毎年、「心のふれあい」をテーマに一般の方からオリジナルの創作童話を募集し、その中から優秀作品を選出のうえ、一冊の童話集「童話の花束」として発行しております。

Jエナジーは、その「童話の花束」を、東京善意銀行やその他の社会福祉団体を通じて、全国の福祉施設や母子家庭などに寄贈しております。

また、全国JOMO会（JOMOステーションを運営している特約店の全国組織）および全国LPガスJOMO会（LPガス特約店の全国組織）を通じて、系列特約店にも「童話の花束」をお買い上げいただき、その売上金の全てを、Jエナジーを含めた3者で共同設立した「JOMO童話基金」に組み入れております。

その「JOMO童話基金」から、毎年、児童福祉の一助として、社会福祉法人全国社会福祉協議会（全社協）に寄付を行っております。

この寄付金は、全社協が設立した「JOMO奨学助成金制度」により、児童養護施設や母子生活支援施設などの子どもたちが大学等へ進学する際に必要な支度金として活用されております。

3. 会社概要

(1) 株式会社市瀬

本社：東京都千代田区神田小川町三丁目
 資本金：16百万円
 社長：市瀬泰一郎
 設立：1947年7月（創業：1908年2月）
 事業内容：エコロジー紙を中心とした洋紙のコンサルティングおよび販売
 売上高：26億円（2005年3月期）

(2) 株式会社ジャパンエナジー

本社：東京都港区虎ノ門二丁目
 資本金：350億円
 社長：高萩光紀
 設立：2003年4月（創業：1905年12月）
 事業内容：石油精製、石油製品販売
 売上高：1兆9,864億円（2005年3月期）